

世界遺産アカデミー認定講師 File No.35

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第35回目は、和歌山県庁で一級建築士として都市計画に携わりながら、和歌山大学大学院で都市デザインを研究されている山本昌輝(やまもと・まさき)さん。WHA認定講師として、和歌山大学などでガイダンスをご担当されています。今回は、山本さんに建築と世界遺産への想いを語っていただきました。

——“世界遺産”という 新しい軸

私が都市デザイン・都市保全の道に進もうと決心したのは、大学2年生の時、英国を2週間かけて縦断した経験でした。バックパックひとつを背負ってのひとり旅は、いわば原点です。都市計画系の研究室に所属し、建築というものに魅了されました。歴史はからきし苦手で、センター試験「日本史」の得点は40点。大学の履修科目も、「日本建築史」、「西洋建築史」、「都市史」を落としたほどです(苦笑)。ところが、歴史的な建築物にはもともと関心があって、小学校の修学旅行で

は「法隆寺が一番印象的だった」と家族に土産話をし、高校時代に建築物や街並みに興味を抱いたことから、建築コースへの進学を決意しました。世界遺産を勉強し始めたのは、社会人となって建築士の資格を取得した後でしたが、その下地は散りばめられていたように思います。

世界遺産は、決して小さくはない変化をもたらしてくれました。歴史が苦手な私ですが、世界遺産を通して建築物の歴史的な理解を深めることができるようになりましたし、勉強するというよりも楽しみながら興味の尽きることなく、学ぶことができました。と同時に、知識面だけでなく、気持ちの上での在



都市デザイン・都市保全の道を決心させた、スコットランドの首都エディンバラの街並み

り方も変わってきました。人前で長話をするのが自分の“アキレス腱”だと感じていたのですが、和歌山大学でのガイダンス経験を重ねるごとに、話をすることにも慣れて

きて、それほど苦ではなくなったのです。自分の中に“世界遺産”という新しい軸ができたことに驚きながら、自分自身の成長を感じています。世界遺産の中でも、お勧めは『紀伊山地の霊場と参詣道』です。間違いありません(笑)。実際に歩いて体験してみないと、本当に魅力は伝わらないと思いますので、皆さんにはゆっくりと旅程を組んで、訪れていただきたいです。神秘的な空間がお迎えしてくれます。また、20代後半に初めてイタリア共和国を訪れて、「ローマの歴史地区」には圧倒されました。チェコ共和国のプラハ、オーストリア共和国のウィーン、ベルギー共和国のブリュージュなどもいつか

訪れてみたいです。“歴史地区”の存在は、世界遺産と今の自分を繋げてくれているように感じます。実務で携わっている都市計画や都市デザイン・都市保全の研究は、直接的に世界遺産を扱うものではありませんが、このような歴史地区から様々な刺激を受けています。世界遺産と出会えたこと、世界遺産を伝えていく認定講師となったこと、このような貴重な機会をいただけて、本当に感謝しています。

——世界遺産は 夢を叶えてくれる

WHA認定講師としては、かれこれ4年目を迎えました。和歌山大学での「日本観光事情」や「旅行産業論」など、観光資源としての世界遺産や観光業界における世界遺産を主題とした授業でのガイダンスを担当しています。印象に残っているのは、初めて大学で講義した時です。緊張のせいか早クチとなってしまい、時間が余ってしまいました。無理やり質疑応答の時間を設けて、その場は収束できたのですが、それ以来、万が一の予防策として、毎回多めにパワーポイントのス



ローマの景観の素晴らしさに、思わずシャッターを切った、いち枚

ライドを用意しています。回数を重ねるうちに話すスピードも少しずつ調節できるようになって、今は認定講師としての自信も備わってきたような気がします。また、担当の先生から、世界遺産が旅行会社のパッケージツ

アーの中でどのように取り扱われているかを講義してほしい、と依頼を受けたことも、印象に残っています。その授業は「旅行産業論」という科目でしたので、今振り返れば至極当然なお申し出だったのですが、当時は思わぬ“変化球”に戸惑いました。どうしたものかと考えを巡らせてみたものの、これといった明確な答えは出ませんでした。専門分野である建築物や歴史地区を取り上げつつ、そこを訪れるツアーを紹介してみたところ、講義後に先生から「これは知らなかった」と好評をいただき、ホッとしました。

講義の際に心がけているのは、楽しさと熱意をもって臨むことです。学生たちに世界遺産の魅力を伝えるためには、自分自身が

楽しく説明することがとても大切だと思います。もちろん時間配分も重要ですね(笑)。旅行しているような感覚とまでは言いませんが、講義中に世界遺産を旅してみたい、世界遺産に触れてみたい、という気持ちになってもらえたら、理想的です。そして、私のガイダンスがきっかけとなって、いつか世界遺産を探求したいと実際に行動してくれる学生が現われてくれたら、最高ですね。建築を志す前は、教育学部に進んで教師の道も考えていましたので、学生たちや学校との関わりによって、夢を叶えさせてもらっています。彼らの一生懸命に耳を傾けてくれる姿に、毎回、元気をいただいています。